

山根銀二氏と栗林義信氏に
第7回鳥井音楽賞決まる

わが国のクラシック音楽の発展、向上に最も寄与した日本人に贈られる鳥井音楽賞の第7回(1975年度)審査発表会は1月20日、東京・赤坂のサントリービルで開かれ、音楽評論家の山根銀二氏とバリトンのオペラ歌手・栗林義信氏が受賞者に決まった。贈賞式は3月下旬に行われる予定。

この日午前10時からの審査会には、宮沢縦一、芥川也寸志、木村重雄各氏ら10名の審査員が出席、まず各審査員が個別に推薦した個人17人、団体4の候補者を対象に選考が始まった。4次にわたる慎重な審査を重ねた結果、山根、栗林両氏を選ぶことで全員の意見が一致、引き続き理事会で正式承認された。同賞の受賞者が2人になったのは今回が初めて。

受賞の山根氏は東京都出身、東京大学卒で69才。昨年完成した3巻にわたる著書「ベートーベン研究」の業績によるもの。「同書はベートーベンのすべてを、その人となりと作品の面から探究した、わが国では画期的なベートーベン研究書」(宮沢縦一審査委員)と評価された。同氏は「私の長年にわたるベートーベン研究が認められて非常にうれしい。同書が審査員の全員に読まれたことは2重の喜びだ」と感想を語った。

栗林氏は佐賀県出身、東京芸術大学卒の42才。受賞理由は、昨年のオペラ「リゴレット」のタイトルロール、「パリアッチ」のトニオ、「オテロ」のイヤゴ役で見せた、わが国の声楽家としてはぬきん出た歌唱と演技、さらにLP「イタリア・オペラ・アリア集」での完成度の高い表現力によるもの。「オペラは現在、大きな曲がりかどにきている。この時期に光栄な賞をいただき感激している。オペラ界全体に大きなはげみとなるだろう」と受賞の喜びを述べた。

なお、鳥井音楽賞は昭和44年サントリー(株)創立70周年を記念して設けられたもので、受賞者には鳥井音楽財団(佐治敬三理事長)から賞状、賞金(それぞれ100万円)、副賞(時計)が贈られる。

(写真説明)

山根銀二氏

栗林義信氏

受賞者を発表する(財)鳥井音楽財団の佐治敬三理事長

以 上